

三条市水道事業ビジョンの達成状況 (令和元年度)

基本方針1 安全で安定した水道水の供給

1 水源の確保・保全・水質管理の徹底

令和元年度の啓発活動等実施回数及び水質異常発生回数の実績は右表のとおりであり、いずれも計画を達成しました。

安全で安定した水道水の供給のために、水源の確保と保全、水質管理の徹底は重要です。今後も水源保全の啓発を行うとともに、水道施設のパトロールや水質管理等の徹底に努めます。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
啓発活動等実施回数(回)	2	2	0
水質異常発生回数(回)	0	0	0

2 水道施設の安全管理

水道施設の日常点検を確実にを行い、施設の異常把握に努めました。

基本方針2 災害に対する強靱化の推進

1 水道施設の耐震化

老朽管の更新に併せて管路の耐震化を進めました。実績は右表のとおりであり、他事業関連工事の取止めに伴い、当初予定工事が廃工となったため、計画未達となりました。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
管路の耐震化率 (%)	10.0	9.2	△0.8

2 災害時対応の充実・強化

応急給水体制の確保については、前年度に引き続き日本水道協会新潟県支部との応援体制が確立されている中で、水道お客さまセンターとの連携を含め、市の水害対応防災訓練に併せて訓練を実施いたしました。

また、災害復旧体制の確保については、日本水道協会新潟県支部の三条エリア団体（三条市、燕・弥彦総合事務組合、加茂市、田上町、三条地域水道用水供給企業団）と資機材の保有情報を共有するなど関係機関との連携を図りました。

基本方針 3 健全な事業運営の持続

1 計画的な施設の更新

浄配水施設の長寿命化については、将来的に、企業団からの全量受水を見据え、大崎浄水場の在り方について更に検討を進めてまいります。

管路更新延長は右表のとおりであり、他事業関連工事の取止めに伴い、当初予定工事が廃工となったため計画未達となりました。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
管路更新延長 (km)	4.4	4.3	△0.1

2 収益の確保

水道事業の収入の根幹を成す水道料金の収納率は、計画値を上回り達成いたしました。引き続き、収納率の向上に努め、未納者に対しては、納入相談等により納付意識の向上に努めてまいります。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
収納率 (%)	98.77	98.88	0.11

3 経営の効率化

経営の効率化の指標については、有収率が計画値を下回りましたが、その他の項目は、目標を達成いたしました。有収率の減少の主な要因は、給・配水管等の老朽化による漏水などの無効水量や消防用水などの無収水量が対前年比で増加したことと考えております。今後もコスト削減等による経営の効率化を進めるとともに、漏水箇所の早期発見・早期修繕を実施し、有収率の向上を図ってまいります。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
職員数 (人)	30	30	0
営業収支比率 (%)	97.64	100.07	2.43
経常収支比率 (%)	100.06	103.05	2.99
有収率 (%)	90.43	90.13	△0.30

基本方針 3 健全な事業運営の持続

4 事業運営体制の強化

水道水の安全性や高度化・多様化するお客様のニーズ等に対応するため、水道施設管理や設計に係る技術等の研修に参加しました。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
外部研修参加人数（人）	6	9	3

投資計画と財政収支計画の達成状況 ①投資計画

投資計画

令和元年度は、配水管布設替工事及び消火栓設置工事等（平成30年度繰越含む）を実施し、当初計画していた事業を概ね実施できました。

なお、配水管布設替工事費については、関連工事の工期延長などにより39,512千円を翌年度に繰り越しました。

（千円）

区 分		令和元年度		
		計 画	実 績	計画値との差
更新費用	浄水施設費	10,000	0	△10,000
	配水管布設替工事費	480,000	595,305	115,305
		490,000	595,305	105,305
その他建設費用	配水施設設置工事費	5,000	1,298	△3,702
	配水管布設工事費	30,000	6,496	△23,504
	消火栓施設費	10,000	3,945	△6,055
	固定資産購入費	4,000	1,203	△2,797
		49,000	12,942	△36,058
計		539,000	608,247	69,247

給水人口と年間有収水量の見込み

給水人口、年間有収水量とも計画値より若干の増となりました。今後は減少傾向が続くと考えられますので、注視してまいります。

区 分	令和元年度		
	計 画	実 績	計画値との差
給水人口(人)	95,806	96,448	642
年間有収水量(千m ³)	11,670	11,806	136

収益的収支

収入においては、料金収入が計画値を上回ったことが寄与し、全体として計画値を上回りました。

支出においては、三条地域水道用水供給企業団の受水費の見直し等により、全体として計画値を下回りました。

以上の結果、純利益は計画値を上回り、計画を達成いたしました。

(千円)

区 分	令和元年度			
	計 画	実 績	計画値との差	
収 入	1 営業収益	1,805,042	1,833,422	28,381
	(1) 料金収入	1,778,045	1,797,835	19,791
	(2) その他	26,997	35,587	8,590
	2 営業外収益	102,842	99,351	△3,491
	(1) 他会計繰入金	1,910	2,576	666
	(2) 長期前受金戻入	60,608	55,412	△5,196
	(3) 水道加入金・その他	40,324	41,363	1,039
	3 特別利益	0	0	0
	計 (A)	1,907,884	1,932,773	24,890
	支 出	1 営業費用	1,848,423	1,832,108
(1) 人件費		167,141	173,292	6,151
(2) 物件費		1,115,035	1,105,264	△9,771
(うち受水費)		827,512	787,290	△40,222
(3) 減価償却費ほか		566,247	553,552	△12,695
2 営業外費用		58,268	43,420	△14,848
(1) 支払利息		57,338	38,929	△18,409
(2) その他		930	4,491	3,561
3 特別損失		500	82	△418
計 (B)		1,907,191	1,875,610	△31,581
損益 (A) - (B)	693	57,163	56,471	
利益剰余金残高	1,105,008	1,353,590	248,582	

資本的収支

資本的収支については、建設改良費を39,512千円、工事負担金を9,110千円それぞれ翌年度に繰り越しました。

また、建設改良費が増加したものの、他事業関連工事の取止めに伴い、起債対象となる工事費が減少したことなどから、全体の差引不足額は計画値を上回りました。

内部留保資金残高は、平成30年度末時点の1,757,272千円から193,203千円増加し、実績1,950,475千円となりました。

(千円)

区 分		令和元年度		
		計 画	実 績	計画値との差
収	1 企業債等	402,000	280,500	△121,500
	2 出資金・補助金	0	0	0
	3 工事負担金・その他	80,467	159,267	78,800
入 計 (A)		482,467	439,767	△42,700
支	1 建設改良費	621,629	664,626	42,997
	2 企業債償還金	178,188	178,187	△1
	3 災害復旧債償還金	2,522	2,522	0
出 計 (B)		802,339	845,335	42,996
差引不足額 (A)－(B)		△319,872	△405,568	△85,696
内部留保資金残高		1,742,596	1,950,475	207,879

令和元年度における水道事業ビジョンの総括

主要事業計画に掲げた事業及び数値目標については、概ね計画どおりに実施及び達成することができました。

経営状況については、給水人口が年々減少していますが、給水人口及び年間有収水量とも計画値を上回りました。

また、収益的収支の損益（純利益）では、計画値を大きく上回ったことから、概ね良好な事業運営ができました。

給水収益については、給水人口の減少に伴い低減傾向にあります。このような状況においても、水道事業はライフラインであり安定した給水を確保していく使命があります。

そのために、水道事業ビジョンで設定した基本理念及び基本方針に基づき、定員適正化等による徹底したコストの削減、漏水防止対策による有収率の向上、老朽配水管等の計画的な更新、施設の長寿命化等を推進してまいります。そして、中・長期的な視点に立ち、経営の効率化と健全な事業経営の持続を図るとともに、安全で安心な水道水の供給に努めてまいります。